

マナーのツボ

先方に渡す書類、雨でぬれてしまった



地下鉄の駅を出ると雨がポツポツ降り始めました。「これくらいなら大丈夫」と気にせず歩きましたがすぐに本降りに。大慌てでバッグから携帯傘を取り出し難を逃れました。よく見ると、バッグの中に雨が降り込んでいます。あろうことか、取引先に持参する書類がぬれているではありませんか。こんなとき、どうしたらいいのでしょうか。

クリアファイルからわずかに出た部分が雨でぬれて折れ曲がり、文字のインクもにじんできます。ぬれてヨレヨレになったのを見ると、書類を取りに戻るべきか、どこかでコピーしようかと迷います。

しかし、約束の時間は待たせてくれません。書類をタオルで拭き、仕方がないと

不注意をわび、後日送り直す

割り切るべきです。打ち合わせにはそのまま持参し、自分の不注意をわびた上で、事情を説明しましょう。

真摯な態度と雨による小さな災難が、会話を盛り上げる助けになってくれるかもしれません。書類がひどくぬれている場合は、先方の手がぬれないようにクリアファイルに入れたままご覧いただきましょう。

ぬれたり折れ曲がったり、文字がにじんだりしている書類をお渡しするのは大変失礼です。帰り際には「後ほど同じものをデータでお送りします」、あるいは「明日持参致します」と告げ、ぬれた書類は持ち帰るのがいいでしょう。

大切な書類がぬれると取引先に迷惑がかかります。時節柄、雨の日が多くて湿度も高めです。外出時の持ち物にはいつも以上の配慮が必要です。

(ビジネスマナー講師

美月 あきこ)